

令和6年度第1回伊賀地域医療構想調整会議 議事概要

- 1 日時：令和7年3月14日（金）19：30～21：00
- 2 方法：オンライン（Zoom meetings）
- 3 出席者：馬岡委員（議長）、清水委員、森岡委員、関田委員、福森委員代理、辻本委員、藤井委員、田中委員、猪木委員、板野委員、高木委員、椿垣内委員、濱村委員、岩本委員
- 4 議題
 - 1 令和6年度病床機能の現状について
 - 2 令和6年度診療報酬改定に係る定量的基準の改定について
 - 3 具体的対応方針について
 - 4 紹介受診重点医療機関について
 - 5 新たな地域医療構想について
 - 6 在宅医療・介護連携推進事業の取組について
- 5 内容
 - 1 令和6年度病床機能の現状について
 - 2 令和6年度診療報酬改定に係る定量的基準の改定について
 - 3 具体的対応方針について

<事務局から説明>

- 令和6年度の病床機能の現状について説明。
- 令和6年度診療報酬改定により新設された地域包括医療病棟および特定集中治療室管理料の定量的基準での取扱いについて事務局案を説明。
- 各医療機関の具体的対応方針について昨年度からの変更点を中心に説明。

<主な質疑等>

- 地域包括医療病棟のPT、OT、STの2名の配置だけではなく、在院日数21日、看護師の配置が10対1等の条件も厳しく、当院で対応できるかと言われると難しいというのが率直な意見。
- 当院では、PTとOTだけは数がキープできそうだが、看護師の数が全くキープできない。これが伊賀区域最大の問題点だと感じる。
- 開業医が増えず、むしろ減っていくばかりの状態。開業医が在宅を担えばいいというのもわかるが、マンパワー的にも限界にある。

（資料2について、委員全員が了承した。）

4 紹介受診重点医療機関・医療機器の共同利用計画について

<事務局から説明>

- 紹介受診重点医療機関の選定について説明。

<主な質疑等>

質疑なし

(資料4について、委員全員が了承した。)

5 新たな地域医療構想について

<事務局から説明>

- 新たな地域医療構想に係る国の進捗状況等について説明。

<主な質疑等>

- 今回の制度改正で、医療計画の下にあった地域医療構想が医療計画の上位に位置づけられることになる。地域医療構想調整会議の意見等の集約など、上手くまとめることができるかという点が心配。
- 日々、目の前の患者に精一杯で、新たな地域医療構想というのは具体的に見えてこないというのが正直な感想。
- 今後、在宅医療、介護もとなると、そちらの知識も少ない。急性期を過ぎた方の受け皿や在宅復帰について、今後の地域医療構想として非常に重要なところだと思うが、なかなか良いアイデアがない。
- 今後、開業医の在宅医療に割けるマンパワーがなくなっていく、病院が地域医療を全て担っていくという体制になるような時期が来れば別かもしれないが、現時点では、開業医にできるだけ頑張ってもらって、対応が難しい部分は病院でサポートする程度ぐらいしか考えられない。

6 在宅医療・介護連携推進事業の取組について

<事務局から説明>

- 地域包括ケアシステム、在宅医療・介護連携に関する概要を説明。

- 各市町のＡＣＰの取組み、医療・介護の場面で課題となりやすい身寄りのない方の支援についての取組みを説明。

<主な質疑等>

- 全国の病院の３割が赤字になっている中で、興味関心が高い先生だけが頑張っているということでは長続きしない。それによって病院が生き残っていけると、どのようなメリットがあるかというところで述べていただけたらありがたい。
- 伊賀区域の医療や介護が崩壊してしまわないか危機感を持っている。今後、どう人材を確保していくかということ、計画等に取り入れていただければ、私たち現場としてはありがたい。
- ⇒ 人材不足が大きな課題となっており、地域ごとに差がある。特に介護分野では、介護報酬が国によって決定されているため、適切な報酬が支払われているか疑問の声が上がっており、県や全国知事会等においても、介護職の低賃金を改善し、適切な報酬を求める要望活動等を行っている。また、若い世代や資格保持者への働きかけ、外国人材の活用など、人材確保に向けた取組みを今後も取り組んでいく。

以上